

会計学教育における学士力の考察

※ 一般レベル:会計学を教養として学ぶ学生を対象とした水準

専門レベル:会計学の高度な活用を必要とする専攻分野の学生を対象とした水準

【到達目標】

1. 会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

<一般レベル>

経済活動、企業経営、測定と伝達、複式簿記、財務諸表、財政状態、経営成績、キャッシュ・フロー、会計基準、会計監査、財務諸表分析など

【到達度】

<一般レベル>

- ① 会計の対象、目的、機能を理解している。
- ② 企業会計の一巡過程を理解している。
- ③ 会計情報の読み方を理解している。

【測定方法】

<一般レベル>

- ①～③は、論述問題や計算問題による筆記試験、外部試験などにより、確認する。

【到達目標】

2. 組織活動の財やサービスを計数的に測定し、伝達できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

<専門レベル>

財務会計、管理会計、複式簿記、原価計算、会計基準、財務諸表、会計情報システムなど

【到達度】

<専門レベル>

- ① 複式簿記の原理を説明できる。
- ② 財務諸表の意義・特徴を説明できる。
- ③ 財務会計の必要性和内容を説明できる。
- ④ 管理会計の必要性和内容を説明できる。
- ⑤ 会計情報システムの概念、データベースなどを説明できる。

【測定方法】

<専門レベル>

- ①～⑤は、論述問題や計算問題による筆記試験、外部試験などにより、確認する。

【到達目標】

3. 組織の経済活動の実態を会計情報として体系的に把握し、問題発見ができる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

＜専門レベル＞

情報開示制度、データ管理、財務諸表分析、原価分析、企業価値評価など

【到達度】

＜専門レベル＞

- ① 情報開示制度を理解し、利用できる。
- ② 財務諸表の分析手法を活用し、財政状態、経営成績、資金運用上の問題を発見できる。
- ③ 原価分析の手法を活用し、原価管理上の問題を発見できる。
- ④ 企業の価値を評価し、問題を発見できる。

【測定方法】

＜専門レベル＞

- ①～④は、ケーススタディにより、レポート、論述問題や計算問題による筆記試験、外部試験などにより、確認する。

【到達目標】

4. 会計情報の有用性を理解し、問題解決や意思決定に応用できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

＜専門レベル＞

予測情報、意思決定会計、業績管理会計、戦略支援(管理)会計、損益分岐点分析、財務会計、投資意思決定、監査論、国際会計、税務会計、公会計、環境会計、会計倫理など

【到達度】

- ① 会計情報を利用して投資意思決定の支援ができる。
- ② 管理会計情報を利用して戦略の実行、経営資源の最適利用などの支援ができる。
- ③ 会計情報の有用性を保証するために会計監査の手続きを説明できる。
- ④ 公会計、環境会計、国際会計、税務会計の特徴や内容(構造)を説明できる。
- ⑤ 国際財務報告基準(IFRS)が企業経営に(会計情報に)与える影響について説明できる。
- ⑥ 会計倫理の重要性について事例を用いながら説明できる。

【測定方法】

＜専門レベル＞

- ①～⑥は、ケーススタディにより、レポート、論述問題や計算問題による筆記試験、外部試験などにより、確認する。